

大阪あゆみ福祉会 2019年度（令和元年）事業報告

★今年度は、5月に大津市の保育園児の交通事故、台風や大雨により、8月のプール参観の中止や、10月の運動会プログラムの一部変更・縮小など、当日まで判断に迷う事や保育内容の見直し、再確認におわれる出来事が続きました。日本国中で地震や豪雨災害は続き、今後もこのような異常気象等による災害が起きることを想定して準備をする必要性があると改めて実感しました。

★年末年始頃から各園で感染症が流行りはじめ、ノロウイルスやインフルエンザA・B、溶連菌感染症、リンゴ病、水痘瘡など長い期間広がりました。

新型コロナ禍 今年初めから新型コロナウイルスが瞬く間に世界中に広がり、保育園でも日々感染リスクと闘いながら、父母へは家庭保育、在宅勤務、保育時間の短縮など協力を得て今日まで開園してきました。ありがたいことに、父母や近隣から消毒液や手作りマスクの提供がありました。

園児に「三密」を理解させることは不可能です。どんな保育をすべきか葛藤の毎日です。国の対策で「新型コロナウイルス感染症対応に係る保育所等への支援」として108億円が予算化され、各園には、50万円を上限に支援される見込みですが、大阪府は検討中とのこと。大阪府下では公立の幼稚園、小中高校が休校中ですが、保育園には父母のニーズに 대응するために市からの開園要請がありました。これをみても保育園は大事なライフラインであることは明らかであるにも関わらず、役割に相応しい扱いからはかけ離れているとわびざるをえません。

★昨年10月より3歳児以上の保育料無償化に伴い、副食費の実費徴収（4500円）が始まりました。園では、3月分より銀行口座から引き落としを開始、業務の簡素化を図りました。

★中央区では、令和2年3月現在、認可保育所17ヶ所（途中開園予定1園は含まず）・小規模保育所13ヶ所・企業主導型保育所21ヶ所になって、まだ増える傾向にあります。企業主導型保育所は昨年よりも2倍以上増えており、保育士の人材確保や0歳児の欠員問題等、新たな課題が出てきました。

★**ジェンダー平等**へ 令和元年度、4名が育児休業取得しました。この中には、男性保育士1名（5日間取得）が入っています。時代は少しずつ進んでいます。

***定員割れ問題** 今年度初めて0歳児の定員割れが生まれました。中央区で長年保育を行ってきた我園にとってはとても衝撃的な出来事でした。なぜ、定員割れが生じたのか？「あゆみ」保育園の直打ちは何か、発信力は？地域との関りはどうだったか、保護者の信頼はどうか・・・等、議論のテーマは沢山あります。

令和元年度事業報告

別紙1 令和元年度法人活動記録

別紙2 令和元年度法人・施設体制担当者名簿

別紙3 令和元年度三者懇談会報告（各園別）

別紙4 労働組合との話し合い報告

別紙 各園の報告 ①～⑦

①年間行事結果表 ②各月初日児童在籍数 ③児童出欠率表 ④病気・ケガ報告表 ⑤職員休暇取得状況表 ⑥職員研修参加状況表 ⑦職員との個別面談まとめ（自己評価・アンケートより）